

製品名: TRAP220 (リン酸化 Thr1457) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05577

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	168kDa

抗原情報

遺伝子名	MED1
別名	MED1; ARC205; CRSP1; CRSP200; DRIP205; DRIP230; PBP; PPARBP; PPARGBP; RB18A; TRAP220; TRIP2; Mediator of RNA polymerase II transcription subunit 1; Activator-recruited cofactor 205 kDa component; ARC205; Mediator complex subunit 1; Peroxiso
遺伝子 ID	5469.0
SwissProt ID	Q15648
免疫原	抗血清は、Thr1457 のリン酸化部位周辺のヒト PPAR-BP 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 1423-1472

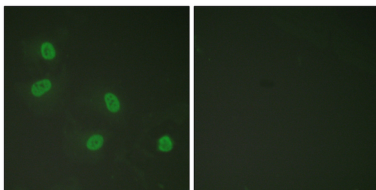
背景

遺伝子転写の活性化は、DNA中の転写エンハンサー部位を認識する因子によって引き起こされる多段階プロセスです。これらの因子は、コアクチベーターと連携して、RNAポリメラーゼII装置による転写開始を誘導します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、CRSP (SP1活性化に必要なコファクター) 複合体のサブユニットであり、TFIIDとともに、SP1による効率的な活性化に不可欠です。このタンパク質は、甲状腺ホルモン受容体 (TR) 関連タンパク質など、他の多サブユニット複合体の構成要素でもあります。TR関連タンパク質はTRと相互作用し、開始因子およびコファクターと連携してDNAテンプレート上でTRの機能を促進します。また、p53依存性アポトーシスを制御し、脂肪形成にも不可欠です。このタンパク質は自己オリゴマー形成能を持つことが知られています。[RefSeq提供、2008年7月]、機能: メディエーター複合体の構成要素。メディエーター複合体は、ほぼすべてのRNAポリメラーゼII依存性遺伝子の転写制御に関与するコアクチベーターです。メディエーターは、遺伝子特異的な調節タンパク質から基礎的なRNAポリメラーゼII転写機構へ情報を伝達する橋渡しとして機能します。メディエーターは、調節タンパク質との直接相互作用によってプロモーターにリクルートされ、RNAポリメラーゼIIおよび一般的な転写因子との機能的な開始前複合体の組み立ての足場として機能します。、PTM: G2/M期にMAPK1またはMAPK3によってリン酸化され、タンパク質の安定性が向上し、核小体への移行が促進される可能性があります。DNA損傷(おそらくATMまたはATRによる)時にリン酸化されます。、配列に関する注意: 汚染配列。ポリA配列の可能性あります。、類似性: メディエーター複合体サブユニット1ファミリーに属します。、細胞内位置: タンパク質のサブセットは、MAPK1またはMAPK3によるリン酸化に続いて核小体に移行する可能性があります。、サブユニット: GATA1およびYWHAHと相互作用します(類似性による)。メディエーター複合体の構成要素であり、MED1、MED4、MED6、MED7、MED8、MED9、MED10、MED11、MED12、MED13、MED13L、MED14、MED15、MED16、MED17、MED18、MED19、MED20、MED21、MED22、MED23、MED24、MED25、MED26、MED27、MED29、MED30、MED31、CCNC、CDK8、およびCDC2L6/CDK11から構成されます。MED12、MED13、CCNC、およびCDK8サブユニットは、CDK8モジュールと呼ばれる独立したモジュールを形成します。CDK8モジュールを含むメディエーターは、このモジュールを含まないメディエーターよりも転写活性化の促進活性が低くなります。メディエーター複合体のうち、1つ以上の異なるサブユニットを欠く個々の調製物は、ARC、CRSP、DRIP、PC2、SMCC、TRAPなど様々な名称で呼ばれています。このサブユニットは、AR、ESR1、ESR2、PPARA、PPARG、RXRA、RXRG、THRA、THRB、VDRなど、多くの核内受容体とリガンド依存的に特異的に相互作用します。CTNNB1、GABPA、GLI3、PPARGC1A、TP53とも相互作用します。DNAに結合します。、組織特異性: 普遍的に発現します。、

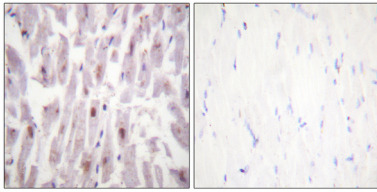
研究分野

-

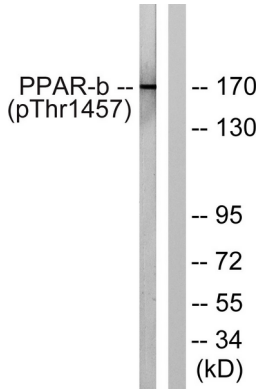
画像データ



PPAR-BP (リン酸化 Thr1457) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



PPAR-BP (リン酸化 Thr1457) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 20% 30% で処理した HUVEC 細胞ライセートの PPAR-BP (リン酸化 Thr1457) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。